

耳鼻咽喉科・頭頸部外科



診療科動画



診療科HP



1. スタッフ

診療科長 (教授) おりた よりひさ 折田 頼尚
 講師 3名
 助教 4名
 医員 11名
 言語聴覚士 1名

2. 診療科の特徴、診療内容

耳鼻咽喉科・頭頸部外科の疾患全般を扱っている。当科の領域としては耳・鼻副鼻腔・口腔咽頭、喉頭、頸部、甲状腺、唾液腺などがあり、各領域の疾患に対しては主に手術治療を中心に診療を行っている。特に各領域の癌に対しては放射線療法、抗癌剤による化学療法、手術治療の組み合わせにより治療を行い、手術による腫瘍摘出後は有茎皮弁あるいは遊離皮弁を用いて形態・機能再建を積極的に行っている。これら悪性腫瘍手術に加えて、中耳手術、人工内耳埋め込み術、音声外科、嚥下機能再建手術などの機能外科手術にも積極的に取り組んでおり、これらを含む専門的な手術症例数は全国の大学病院でも上位にランクされている。

3. 診療体制

○外来診療体制

外来診療日：月曜日、水曜日、金曜日
 [初診] (月曜日) 折田・西本・竹田・菅村
 (水曜日) 折田・伊勢・宮丸・倉岡
 (金曜日) 村上・宮丸・齋藤

[一般再来] 担当医師

[特殊専門外来]

頭頸部腫瘍外来・折田、村上
 音声外来・・・西本
 嚥下外来・・・宮丸
 耳鳴外来・・・竹田
 補聴器外来・・・伊勢
 小児難聴外来・・・伊勢
 めまい外来・・・竹田

[カンファレンス] 月曜日午前・水曜日午前

○病棟診療体制

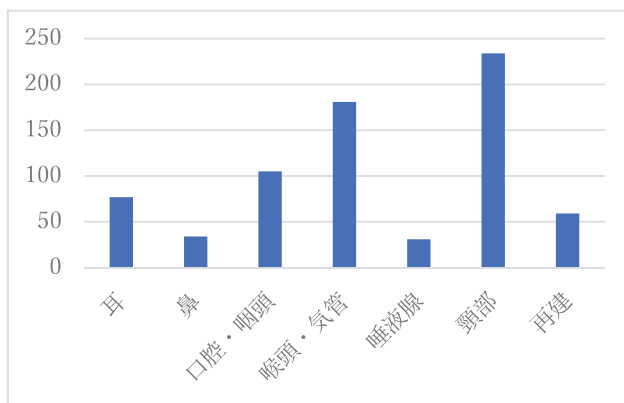
教授回診：月曜日午後
 術後回診：金曜日朝
 手術日：火、木 (適宜 月、水、金)
 病棟診療：担当医

4. 診療実績

①入院延べ患者数	16,588名
②新入院患者数	681名
③平均在院日数	23.2日
④外来患者総数	16,719名
⑤初診患者数	1,224名

○手術の件数等

令和5年度の合計手術件数は721件であった。
 下図にその疾患別内訳を示した。(重複有り)



○検査の実績等

代表的な検査実績を記載した。

純音聴力検査	1,106件
内視鏡検査	5,945件
頸部超音波検査	1,902件
穿刺吸引針生検	398件
嚥下造影検査	106件

5. 高度先進的な医療の取組

様々な先進的な治療に取り組んでいる。

代表的なものを記載する。

- ・片側性反回神経麻痺に対する神経筋弁移植による音声改善効果
- ・痙攣性発声障害に対するチタンブリッジを用いた甲状軟骨形成術

6. 臨床試験・治験の取組

[文部省科学研究費]

- 1) 基盤研究(C)
舌癌発生過程における Treg 排除療法の研究
折田 頼尚/佐藤 康晴
- 2) 基盤研究(C)
遺伝子改変マウスを用いた頭頸部扁平上皮癌動物モデルの作成
伊勢 桃子/折田 頼尚・西本 康兵

3) 基礎研究(C)

加齢による音声障害に対する Sirt1 を介した
新たな治療法の開発

宮丸 悟

4) 若手研究

組織工学的手法を用いた甲状腺の再生

西本 康兵

5) 若手研究

細胞移植による内耳有毛細胞再生

竹田 大樹

6) 若手研究

舌癌におけるマクロファージマンノース
レセプターの発現に関する研究

竹本 梨紗

7) 若手研究

中咽頭扁平上皮がんにおける Yes-
associated Protein1 (YAP1) の機能解析

齋藤 陽元

3) 喉頭科学

① 片側麻痺喉頭の画像解析

② 運動障害性嚥下機能の診断と治療

③ 機能性発声障害と声帯振動解析

④ 高解像度内圧計を用いた正常および喉頭麻痺
患者の嚥下動態に関する研究

⑤ 癒痕声帯に対する治療法の開発を目指した基
礎研究・臨床研究

7. 地域医療への貢献

乳幼児難聴に対しては、新生児聴覚スクリーニング後の精密聴検を県の福祉総合相談所とともに
行い、療育については難聴幼児通園施設ひばり園や県立聾学校と連携しながら聴覚管理、補聴器管理を行っている。また、難聴児親の会などの講演、重度難聴者に対する人工内耳の説明会、小学校における難聴学級の設立および教職員への教育を通して地域医療へ貢献をしている。

8. 医療人教育の取組

幅広い領域の診療経験を持ち専門医資格を有するスタッフによる指導を通し専門医取得を積極的に支援している。現在当科は日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医研修施設、頭頸部がん専門医制度認定施設、日本気管食道科学会研修施設である。また、医学生に対しては卒前から一貫して初期研修・後期研修の取り組みを実施している。

9. 研究活動

【研究プロジェクト名】

1) 頭頸部腫瘍学

① 病態と予後解析

② 遺伝子およびタンパクの発現パターン

③ 癌微小環境に関する研究

2) 耳科学

① 遺伝性難聴に対する治療法の開発

② 感音難聴に対する幹細胞治療法の開発